
福岡デザイン専門学校

学校自己評価報告書

2015年度（平成27年度）

2016年3月

学校法人 双葉学園

福岡デザイン専門学校「学校評価」(自己点検・自己評価、学校関係者評価)取組みについて

福岡デザイン専門学校 学園の理念

「学生一人ひとりの潜在的な能力を見だし、デザインを通して社会の諸問題を、立ち向かう力を身につけさせることを目指し、人と社会をつなぎ、社会の価値を創造することが出来る人材を育成する」本校は開校以来は、この学園の理念を大切にデザイン教育を実践してまいりました。

学生がデザイン業界のニーズを踏まえた質の高い教育を受けられよう、教育課程編成委員会や講師会議での様々な意見や批評を最重要課題として、カリキュラム、授業に反映させ、独自のデザイン教育力の構築してきました。

2014年には、「職業実践専門課程」の初年度に認定を受け、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」の指標に沿って、「学校評価」(自己評価、学校関係者評価)を実施し、デザイン教育水準の向上を図ってまいりました。

今年2016年には、本校の総合デザイン科も「職業実践専門課程」の認定を受け、今後さらに質の高いデザイン実践専門教育を提供いたします。

「学校評価」として公開します内容は、下記の項目のように多域に渡り、本校の実践デザインの教育方針がご理解いただけるかと存じます。

4段階の評価は学外の諮問委員会である学校関係者評価委員会の評価を記載しております。

公開に際し、皆様から忌憚のないご意見を本校のデザイン教育力の向上に繋げていくこととお約束いたします。

□公開項目

教育理念、目標(目的)、育成人材目標、学校が掲げるの将来像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令等遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流

目次(点検中項目一覧)

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検中項目(1-1)	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	P5
点検中項目(1-2)	学校の職業教育の特色は何か	P5
点検中項目(1-3)	社会経済等のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか	P5
点検中項目(1-4)	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	P5
点検中項目(1-5)	各学科の教育目標、育成人材像等は、学科等に対応するニーズに向けて方向づけられているか	P6
点検中項目(1-6)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	P6

基準2 学校運営

点検中項目(2-1)	目的等に沿った運営方針が策定されているか	P7
点検中項目(2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	P7
点検中項目(2-3)	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	P7
点検中項目(2-4)	人事、服務、給与に関する規程等は整備されているか	P8
点検中項目(2-5)	教職員数体制について	P8
点検中項目(2-6)	防災に対する体制は整備されているか	P8
点検中項目(2-7)	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	P9

基準3 教育活動

点検中項目(3-1)	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	P10
点検中項目(3-2)	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	P10
点検中項目(3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	P10
点検中項目(3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	P11
点検中項目(3-5)	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの編成・見直し等が行われているか	P11
点検中項目(3-6)	関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)や産学連携による企業課題などが体系的に位置づけられているか	P11
点検中項目(3-7)	授業評価の実施・評価体制はあるか	P12
点検中項目(3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	P12
点検中項目(3-9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	P12
点検中項目(3-10)	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	P12
点検中項目(3-11)	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	P13
点検中項目(3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	P13
点検中項目(3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	P13
点検中項目(3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	P14

基準4 学修成果

点検中項目(4-1)	就職率の向上が図られているか	P15
点検中項目(4-2)	資格取得率の向上が図られているか	P15
点検中項目(4-3)	退学率低減の取組が図られているか	P15
点検中項目(4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	P16
点検中項目(4-5)	卒業後の動向、実績を把握し学校のエデュケーションの改善に活用されているか	P16

基準5 学生支援

点検中項目(5-1)	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	P17
点検中項目(5-2)	学生相談に関する体制は整備されているか	P17
点検中項目(5-3)	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	P17
点検中項目(5-4)	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	P18
点検中項目(5-5)	課外活動に対する支援体制は整備されているか	P18
点検中項目(5-6)	学生の生活環境への支援は行われているか	P18
点検中項目(5-7)	保護者と適切に連携しているか	P18
点検中項目(5-8)	卒業生への支援体制はあるか	P19
点検中項目(5-9)	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	P19

基準6 教育環境

点検中項目(6-1)	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	P20
点検中項目(6-2)	学外実習、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	P20
点検中項目(6-3)	教育上必要な資料は整備されているか	P20

基準7 学生の受入れ募集

点検中項目(7-1)	学生募集活動は、適正に行われているか	P21
点検中項目(7-2)	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	P21
点検中項目(7-3)	学納金は妥当なものとなっているか	P21

基準8 財務

点検中項目(8-1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	P22
点検中項目(8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	P22
点検中項目(8-3)	財務について会計監査が適正に行われているか	P22
点検中項目(8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	P22

基準9 法令等の遵守

点検中項目(9-1)	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	P23
点検中項目(9-2)	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	P23
点検中項目(9-3)	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか	P23

基準10 社会貢献・地域貢献

点検中項目(10-1)	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	P24
点検中項目(10-2)	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	P24
点検中項目(10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	P24

基準11 国際交流

点検中項目(11-1)	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	P25
点検中項目(11-2)	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	P25
点検中項目(11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	P25
点検中項目(11-4)	国際交流に対して積極的な取り組みを行っているか	P26

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検中項目(1-1)	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)								
	<table><tr><td>適 切</td><td>ほぼ適切</td><td>やや不適切</td><td>不適切</td></tr><tr><td>④</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> 多様な価値観が交差する現代社会において、既成概念にとらわれず広い視野で物事を観察し判断すること、グローバルな視点で物事を考えることが重要になっています。 「デザインは加減です。」この言葉は、本校創立者、故内田チサ先生が残された言葉であるが、「足りないものを加え、余分なものを減らす」という、この加減のバランス感覚を養うことこそデザインの本質であると考えています。 また、本校は学生一人ひとりの潜在的な能力を見だし、デザインを通して社会の諸問題に立ち向かう力を身につけさせることを目指し、人と社会をつなぎ、社会の価値を創造することが出来る人材を育てることを教育理念としています。	適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	④	3	2	1
適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切						
④	3	2	1						
点検中項目(1-2)	学校の職業教育の特色は何か								
	<table><tr><td>適 切</td><td>ほぼ適切</td><td>やや不適切</td><td>不適切</td></tr><tr><td>④</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> デザイン業界は、一つの専攻(分野)を身に付けるだけでは十分ではなくなっています。様々なデザイン分野が複雑に絡み合いながら成立しています。 本校では、1年次にそれぞれのコースの6つのデザイン専門科目を全て学び経験し、2年次からは自分に合った2専攻を選択する専攻セレクトシステムを導入しています。3年次には2年次と同じ専攻を選択してより深く学ぶことも、異なる専攻を選択してさらに幅広く学ぶこともできます。 2年次、3年次のデザイン専門科目は、福岡で活躍されている有能なデザイナー、建築家が授業を担当する少人数クラス制で、高いレベルのデザイン現場で通用するデザインスキルを身に付ける職業実践教育が特色となっています。 また、技術や産業構造の変化にきっちりと対応でき、且つ、そのような変化に惑わされない本物のデザイン力を持った人材を育成するため、1年次には、感性、構成力、造形力などデザインの基礎的なバランス感覚を身に付けることに重点が置かれ、4年次には、より高度な実践デザイン教育と理論的な思考を深めるためのカリキュラムが組まれています。	適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	④	3	2	1
適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切						
④	3	2	1						
点検中項目(1-3)	社会経済等のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか								
	<table><tr><td>適 切</td><td>ほぼ適切</td><td>やや不適切</td><td>不適切</td></tr><tr><td>④</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> 社会人の学び直しや、経済的な事情などによる多様な学習ニーズに対応するため、1年次から4年次まで、各年次の明確なデザイン実践教育のプログラムを構築し、入学希望者が望む修業期間(1年間～4年間)、学びたい内容に合わせ選択できる職業実践専門教育(4学科、2コース、14専門科目)を実施しています。 また、2014年度(H26)に大阪芸術大学との学校提携が結ばれ、2015年度(H27)から併修制度が始まり、学生の経費的負担を軽減させながら学士を目指せるようになりました。今後、この併修制度のサポート体制を充実させ、大学カリキュラムと本校カリキュラム相乗効果を図り、教養や理論にも裏付けされた高度なデザイン教育を目指します。 海外の大学との提携など、本校学生の留学や、留学生受入を視野に入れたグローバルな教育体制を構築し、国際的に通用性のあるデザイン教育を目指します。	適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	④	3	2	1
適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切						
④	3	2	1						
点検中項目(1-4)	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか								
	<table><tr><td>適 切</td><td>ほぼ適切</td><td>やや不適切</td><td>不適切</td></tr><tr><td>④</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> 学生には、入学前のオープンキャンパスにおいて、本校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想など十分に説明し入学に繋げています。 入学後は、オリエンテーションにて改めて説明をした上で、通常授業の中でも学生の意識改革として話をしています。保護者においては、毎年、春期に後援会総会、秋期に保護者懇談会を開催し、本校の理念などと、授業内容や就学状況の説明、報告を行っています。	適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	④	3	2	1
適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切						
④	3	2	1						

点検中項目(1-5)	各学科の教育目標、育成人材像等は、学科等に対応するニーズに向けて方向づけられているか
------------	--

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校では、各学科の位置付けは、点検中項目(1-3)説明したように修業期間の違いであって、各学科の教育目標、育成人材像は同じであり、授業科目も共有しています。 1年次に学生が効率よくデザインを学べるように、視覚情報デザインコースと立体空間デザインコースと二つのコースから選択するが、コースの変更、他コースの授業を履修できるなど、学生の適性、可能性に柔軟に対応できるよう体制を構築しています。 教育理念にも明示しているが、多様な価値観が交差する現代社会において、既成概念にとらわれず広い視野で物事を観察し判断すること、グローバルな視点で物事を考えることが重要になっています。本校のすべての学科、コースは、教育理念の実現の為、様々なデザインの事務所、会社から有能な講師を派遣していただき、デザイン産業界と連携しながら、より実践に対応したデザイン専門課程の充実を図っています。			

点検中項目(1-6)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
------------	---------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
専門学校への入学者は、高校卒業の18歳の学生ではありません。大卒生や大学を途中で針路変更した者、デザイン分野未経験の社会人、デザイン分野経験の社会人など多岐にわたります。本校も入学者の半数近くがそのようないわゆるスキルアップ希望の学生で占められています。 2014年度(H26)より、基礎デザイン科を設置し、1年間でデザインの基礎を学ぶ課程1と、同じく1年間で専門科目を学べる課程2を設けています。時間があまり取れない社会人に対しては、科目履修、聴講生の制度も開校時より整備しています。 また、本校と同系の大学、専門学校で単位を修得している場合、総合デザイン科2年次、高度総合デザイン科2年次、3年次への編入が可能であり、就学期間を短縮できるよう配慮されています。			

基準2 学校運営

点検中項目(2-1)	目的等に沿った運営方針が策定されているか
------------	----------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校の目的は、学園の理念に掲げたデザイン教育を実現することです。 そのための10～20年後を見据えた長期計画を設定し、且つ時代の価値、社会構造の変化に対応した3～5年毎の中期目標を設定しています。また、中期目標に沿って、目的達成の為に3ヶ年計画を立案したうえで、当該年度の運営方針として目標、及び重要施策を策定し、その重要施策が達成出来るよう各部署単位で戦略、戦術を検討、設定しています。 単年度の運営方針は、年度毎で完結されるものではなく、学校の長期、中期計画、3ヶ年計画を見据え各年度を連動させ戦略的に推進するために策定しています。			

点検中項目(2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか
------------	-----------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校の運営方針の基盤である学園の理念を実現するために、「財務基盤の強化、見直し」、「多様な経営戦略の模索」等にかかわる具体的な事業計画を策定、遂行されています。 中でも学校の「価値作り」として デザイン分野における教育力を高めていくことが、学生募集にも繋がり、学校運営の安定を維持する最も重要なことだと考え、様々な事業計画を策定し、実践しています。 2013～2015年度3ヶ年計画での教育力を高める具体的な事業計画として 2013(H25) 年度、「職業実践専門課程」の初年度)認定学科をもつ学校となり職業教育の充実深化、向上に鋭意取り組みました。 2014(H26) 年度は、本校にとって極めて重要な新学年制(3年制、4年制、1年制)がスタートし、大阪芸術大学との学校提携締結、従来の専門学校とは内容、価値が大きく違う 学校として運営しました。 2015(H27) 年度は、大阪芸術大学通信教育部との併修制度スタート、運用。2016(H28) 年度4月開講するアート造形科の設置準備と、「総合デザイン科(3年制)」の「職業実践専門課程」への申請手			

点検中項目(2-3)	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか
------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校運営組織及び意思決定機能は「学校法人双葉学園寄附行為」に明確に規定されています。 学校全体に係わる経営事項、重要事項は理事会での承認が必要であり、さらに評議員会での諮問が必要と規定されています。 実務に関しては、「学校法人双葉学園事務組織規則」で各部の組織、機能、分掌を細かく規定しています。尚、今年度は組織変更等があり、「事務組織規則」の大幅な見直し・更新を行いました。 通常の学校運営に係わる事項は、週1回開催される「部長会」で審議、決定され、各部の「部会」で周知され実行されます。 月1回開催される「全体会議」は、理事長出席のもとで当該月の学校全体の重要運営事項が各部より発表され、全員への周知と諮問を図っています。 本校の運営組織及び意思決定機能はそれぞれの組織体で明確にされており、かつ有効に機能しています。			

点検中項目(2-4)	人事、服務、給与などに関する規程等は整備されているか
------------	----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
人事、服務、給与等に関しては本校「就業規則」に細かく規定されています。この規則は学校法人双葉学園の教育理念、目標を達成するため職員の職務内容、条件を定めたものです。当規則に定めのない事項については、労働基準法その他の法令の定めるところによるものとしています。 具体的には人事規則として採用、服務規律、休職、労働時間、休日、解雇、表彰を規定しています。職員の任免その他の人事に関する権限の任免権者は理事長であり、また服務の監督は所属長である校長が行うように規定されています。 就業規則の付帯規則として、介護・育児休業等の規定、非常勤講師就業規則、国内外出張に係わる旅費規程の規定、退職に関しての定年規則や退職金規則、再雇用に関する規定等が整備されています。			

点検中項目(2-5)	教職員数体制について
------------	------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
2015年(H27)4月1日現在の本校教職員数は本務14名、兼務28名です。 本校運営上重要な経営指標の1つが教職員数です。学校にとっての最適教職員数は果たして何名なのか。これはどの学校においても大変重要なことです。それは、各学校の経営力(資金力)、学校規模、学生数等により決まってくるものであらうと思われます。 日本私立学校振興・共済事業団によると私立大学の人件費比率ほぼ50%で推移しているという調査結果があります。また、ある民間の大手進学塾の人件費比率が約49%ですから、専門学校においても妥当な人件費比率として50%が目安になると考えられます。 本校では、この人件費比率50%を目安に、数年後を見据えた優秀な教職員の確保していくことが学校経営上もっとも大切な施策のひとつだと考えています。			

点検中項目(2-6)	防災に対する体制は整備されているか
------------	-------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校の防災計画に関し、2005年「西方向地震」及び2011年に発生した「東日本大震災」等の地震災害の経験、検証をもとに、2011年に「福岡デザイン専門学校防災マニュアル」を策定しました。 「防災マニュアル」では、地震発生時の対応として発生時の初動マニュアル、避難マップ、避難ルートまた地震発生時の学校への安否報告、家族との安否連絡等を連絡し合う「緊急用メール」を設置するなど、細かな対応を決めています。 本校「防災マニュアル」は入学時に学生に配付し、後日、応急手当の方法、消化器の使用法を含め説明会を実施し学生に防災意識を高めています。 また、消防計画についても毎年「学校に火災が発生した」との状況で避難訓練を実施しており、学校として防災計画は適切に整備され訓練もされています。 早期警報機を設置、備蓄倉庫にて緊急用の食料及び水も確保しています。			

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学校情報管理は、学籍・成績・出欠等の学生管理システム、入学希望者管理システム、経理・会計システムの3系統あり、それぞれのネットワークは情報セキュリティ上の理由で物理的に切り分けられています。 また、教職員データサーバー・学生授業データ作品管理サーバー・課外活動管理サーバー、広報活動管理サーバーがあり、教職員間の情報共有や学生との情報共有、ならびに課題制作のデータ管理や作品保存などに活用されています。 他に校内ネットワークが構築されており、すべてのパソコン同士の情報共有や周辺機器との連携が図れるようになっています。 さらにセキュリティ上、校内ネットワークとは回線を隔てられたWiFi設備が設けられており、教職員、学生ともに各自のスマートフォンやタブレット等で外部情報の閲覧やWiFiを基にした通信が可能となっています。 次年度は、学校情報や教職員、学生の個人情報に対するセキュリティの強化のためネットワークシステムの機器更新が予定されています。			

基準3 教育活動

点検中項目(3-1)	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
------------	---------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
教育理念に基づき学生一人一人の潜在的な能力を見いだすため、学生との対話を大切にしています。 学生個々の持つ価値観、感性に社会で通用するための様々なスキルをプラスすることで次世代を担うデザイナーの育成を目指します。 手を動かすこと、体験することをベースとした感覚トレーニングをカリキュラムの中心に据え、デザイナーとして必要な考え方、発想、理論、コンピュータ技術などを幅広く習得させています。 専門分野においては、九州、全国で活躍される有能なデザイナー、建築家に講師として担当してもらい、デザイン社会の今を学生に伝えることを 第一に実践的な指導を行っています。 また、各自が専攻した専門分野だけでなく、他のデザイン分野と融合したデザイン活動を積極的に奨励し、幅広い視野に立った総合デザインの構築を目指します。			

点検中項目(3-2)	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
各科の授業は、基礎デザイン科(1年制)の課程Ⅰは、1期～2期、課程Ⅱは、3期～4期、総合デザイン科(3年制)では1期～6期、高度総合デザイン科(4年制)では1期～8期で構成されている。 各期の課程内容は、1期～2期は専門基礎課程、3期～6期は専門課程、7期～8期は専門応用課程で構成されています。 1期では、デザインの基礎理論と基礎造形実習を通して、造形力、表現力など基礎デザインの能力を高める。 2期では、各科の根幹である専門基礎科目を中心に各デザイン分野の知識を深め、理解力を養う。 3期では、各専門分野での基本的な知識や専門的な技術を習得し、デザインにおける専門的な能力を養う。 4期では、各専門分野をより実践的に学習する。 5期では、2年次の3期4期で選択した同じ分野を深く学習するか、違う分野を広く学習するかを選択し、より実践力を高める。 6期では、各専門分野をより実践的に学習し、総合デザイン科では卒業制作を、高度総合デザインでは総合研究Ⅱとして3年間の集大成として作品制作に取り組む。 7期では、マネージメント、プロデュースを含めデザインを総合的に学習する。 8期では、4年間の集大成として、ブランディングを見据えた卒業制作に取り組む。			

点検中項目(3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
------------	-------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
すべての学科は、視覚情報デザインコースと立体空間デザインコースの二つのコースで構成されており、 視覚情報デザインコースは、グラフィックデザイン／編集デザイン／web デザイン概論／パッケージデザイン／イラスト・キャラクターデザイン／CG・アニメーションの6つの専門分野で、 立体空間デザインコースは、インテリアコーディネート／建築デザイン／ショップデザイン／ディスプレイデザイン／家具デザイン／プロダクト・雑貨デザインの6つの専門分野で体系的に編成されています。 また、1年次には、感性、構成力、造形力などデザインの基礎的なバランス感覚を身に付けることに重点が置かれ、4年次には、より高度な実践デザイン教育と理論的な思考を深めるためのカリキュラムが組まれています。			

点検中項目(3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
------------	--

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
教務会議や講師会議を開き、現状の授業編成及び内容の検証、問題点の検討を行い、学生にとってより効果的なデザインの教育体制を追求しています。 点検中項目(3-2)点検中項目(3-3)で記載された教育体制は、本校が独自に試行錯誤を繰り返しながら工夫、開発してきた教育体制であり、各専門授業の人数が直前まで決まらないリスクを伴うが、学生にとって最良を考えた結果であり、非常に高い成果を生んでいます。			

点検中項目(3-5)	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの編成・見直し等が行われているか
------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
デザイン分野の関連企業、団体や有識者で構成される教育課程編成委員会(年3回程度)を開催し、現状の授業編成及び内容の問題点の洗い出し、デザイン現場の動向や変化を読み取り、次年度のカリキュラム及び授業内容に反映させています。 デザインの各分野は非常に専門性が高いが、各デザイン分野は密接に結びついており、幅広い知識が必要となってきたため、各授業の連携や棲み分け、授業だけでは足りない分野をゼミなどの共通講座で補うなど幅広い視点で見直しを行っています。			

点検中項目(3-6)	関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)や産学連携による企業課題などが体系的に位置づけられているか
------------	--

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学生が、在学中に将来の仕事に関連した企業で就業体験をすることで、本校で学ぶデザインの考え方や表現、技術と実社会での実践デザインによる経験、体験を結びつけ、将来のキャリアビジョンをより明確にすることを目的とし、インターンシッププログラム(1~2週間)を実施しています。 総合デザイン科、高度総合デザイン科では2単位以上修得することを卒業要件としています。インターンシッププログラムについては、事前申請と報告書を教務部にて考査し、1~2単位を付与しています。 また、当校が特別に実施契約を結ぶ企業へ、長期間(1~6ヶ月)派遣するCO-OPプログラムを制定しました。CO-OPプログラムの対象学生は、総合デザイン科3年次、高度総合デザイン科3~4年次の学生のうち、取得単位数や修学態度などを審査し選抜しています。 企業や行政機関、デザイン団体から課題を受注し、積極的にカリキュラムに取り入れ、実践的な内容を行っています。外部からの課題は、年度始めのカリキュラム編成時には決定していないことが多く、柔軟なカリキュラム実施と指導体制を構築している。また、依頼された課題については、学生にとって適切であるか判断する仕組みを構築しています。 2015年度実績・・ 株式会社オークマ(障子のデザイン) 社会福祉法人福智の里 指定障害者施設 鷹取学園(学園祭ポスター制作) 福岡市商工部(福岡サイエンスマンスポスター制作) 木工房ふじやん(商品パッケージデザイン提案) 社会福祉法人あけぼの会 ほのぼのHaKaTa(手作りノート制作 ディレクション) ほのぼのHaKaTa(手作りノート表紙・中ページデザイン) 福岡市こども総合相談センターえがお館(クリスマスカード制作)			

点検中項目(3-7)	授業評価の実施・評価体制はあるか
------------	------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
各学期末に全学生を対象に授業評価アンケートを実施し、授業内容に反映させています。特に本校では、記名して実施しているため、各学生の習熟度とアンケート結果を照らし合わせ、より効果的な分析をしています。 また、講師会議では、各教員に結果を公表し、改善点などを議論しています。			

点検中項目(3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
------------	-----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学外有識者を含む教育課程編成委員会を設け、本校の教育水準向上を図り、かつ技術発展の目覚ましい産業界の人材ニーズにも対応するため、本校教育課程に関して審議を行っています。それにより本校の職業教育に業界の声などを反映させた、時代が要望する本校の教育課程を編成しています。			

点検中項目(3-9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
------------	--------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
成績評価においては、合評会などによる複数講師での評価を積極的に取り入れています。 単位認定は授業担当講師が行うが、担任や教務部主任がチェックを行っています。 各学年の進級には必要な修得単位が決められており、進級判定、卒業判定は、教務部全員による進級判定会議、卒業判定会議で判定を行っています。 また、大学や短期大学の評価基準と比較検討しながら、より高い本校独自のデザイン力を身につけさせるための評価方法や基準の構築を目指しています。			

点検中項目(3-10)	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
-------------	--------------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
デザインの業界で資格が必要なことはほとんどないため、本校では必要最少限の資格取得に向けたカリキュラム体制を組んでいます。 色彩については全学生が知識を持つ必要があることから、色彩士3級、2級の資格取得を目指す試験対策を含めた授業を実施しています。 立体空間デザインコースでは、国家資格である二級建築士及び木造建築士の受験資格の認定を受けており、建築系の授業科目を履修することで、卒業と同時に受験資格が得られるようにカリキュラムを組んでいます。 また、大阪芸術大学、通信教育部のデザイン学科、建築学科との併修制度を確立し、大学卒業、学士を目指すための指導体制を整備しています。			

点検中項目(3-11)	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
-------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1

教員確保については、実績だけでなくデザインの方向性、思考が本校の教育理念に合っているかどうかをもっとも重視し、教員の質を確保しています。
学生と近い存在で、精神面も含めた指導、アドバイスができる教員と、業界人として高いレベルでのデザイン指導できる教員のバランスを考えた教員確保を実施しています。

点検中項目(3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか
-------------	--

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1

優れた教員確保のため様々なデザイン団体への協力や、イベントへの参加を積極的に実施し、人材の情報収集を心がけ、本校に必要な人材を講師として確保しています。また、優れた講師を採用できるよう、専任講師との連携で柔軟な授業編成を行っています。
また、大阪芸術大学、通信教育部のデザイン学科、建築学科との併修制度の制定にあたり、当校の教員が大阪芸術大学の非常勤講師として認定される必要があり、今まで以上に充実した教員確保を実現しています。

点検中項目(3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
-------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1

先端的な知識、技能が習得できるように、様々な企業との商品化プロジェクトを積極的に推し進めています。

専任教員には、教員養成講座や研究会、デザインセミナーへの参加や、フォント研修の受講など積極的な研修を促しています。また、様々なコンペティションへの参加や、作品発表を促し、より専門的な活動を推奨しています。

併修制度を提携した、大阪芸術大学、通信教育部建築学科の卒業制作プレゼンテーションを視察するなど、大学の教育レベルを知る取組を行っています。

富山デザインウェーブなどへの参加や、東京で開催されるデザインイベント、海外への研修を通して最先端のデザインの動向を把握するようにしています。

日本グラフィックデザイナー協会の中小企業活性化プロジェクトへの参加や、特定非営利活動法人全国美術デザイン教育振興会の研究会などに教員を派遣しています。

点検中項目(3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか
-------------	------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
日本学生支援機構(奨学金)の研修会及び事務連絡会へ参加し、最新の情報を学生対応及び事務手続へ活かしています。 私学共済に関しても、事務担当者連絡会・研修会へ参加することで制度の変化等(新年金制度の創設など)を加入者へ伝達・相談等に活かしています。(常に最新の情報を入手して業務を行っている) 総務経理部では、税務署主催の「年末調整の説明会」へ参加や、その他学校会計に関する研修会及びソフトの講習会等へ参加をし業務に繋げています。 就職部では、福岡県若者仕事サポートセンターや福専各が開催する就職に関連のセミナーやイベントに参加し学生指導のスキルに繋げています。 留学生担当者は、入国管理局による「申請取次研修会」や福岡県警主催「犯罪防止研修会」などに参加して留学生対応業務に繋げています。			

基準4 学修成果

点検中項目(4-1)	就職率の向上が図られているか
------------	----------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
2014年度(平成26年度)の進路内定率は92.8%を達成しています。(毎年90%台を達成している。) 通常の「合同企業説明会」にはデザイン系の企業が少なく、本校学生の参加が効果的でないことが多いので、本校独自に学内でデザイン系の企業説明会を多数実施し、学生の就活に繋げています。 就職部では、常に就職関連会社の新規開拓や、従来の就職先についての採用動向を把握し、教務部と学生を交え就職活動について話し合いの場を設けながらコミュニケーションを図っています。 また、インターンシップから就職に繋がるケースも多く、学生の積極的なインターンシップへの参加を促しています。			

点検中項目(4-2)	資格取得率の向上が図られているか
------------	------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
専門学校の場合、資格必須系分野の学校と非資格系分野の学校があり、本校はデザインを専門とする学校のため、後者に当たります。 主な取得目標資格としては、色彩士検定(1級～3級)、二級建築士、インテリアコーディネーター、商業施設士等が挙げられます。専攻によって目標資格が違うが、各資格については授業および対策講座を実施しており、指導教員はその都度、合格目標を想定し指導にあたっています。 また、大阪芸術大学、通信教育部のデザイン学科、建築学科との併修制度が確立され、大学卒業、学士を目指せるようになりました。			

点検中項目(4-3)	退学率低減の取組が図られているか
------------	------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
退学は、月毎で詳細に把握し、低減に向けてのさまざまな施策に活用しています。 退学理由は、①一身上の都合(病気を含む)、②経済的理由、③その他等があり、そのいずれもそれ相応な、止むを得ない理由ですが、日常の授業、学生生活ケアをできるだけ細かに指導することで退学者となることを学校として防ぐ努力をしています。 理由①の特に精神的な問題に対しては、メンタルケア講演会を実施したり、校医として義村メンタルクリニック医院と提携し対処しています。 理由②については現在、授業料分割制度や、経済的に苦しい家庭への救済措置等を実施しています。 理由③については勉学の遅れ等が挙げられるが、随時、夜間や休暇期間等を利用して、個別に補習を行っています。 また、退学希望者に対しては、できるだけ休学、復学を促し、長期的な視点に立った卒業への取り組みを行っています。			

点検中項目(4-4)	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
------------	----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
学修成果として、卒業生、在校生の社会的活躍および評価は非常に重要です。 卒業生は1期生から17期生までになるが、業界において中堅デザイナーとして様々な活躍をしています。独立してデザイン事務所を構える者も多く、卒業者同士のネットワークで、仕事に取り組む事例も見受けられるようになりました。卒業生の事務所に就職する事例もあります。 在校生においても、様々なコンペティションでの入選、入賞や、「年間日本の空間デザイン」にAFTER 5(クラブ活動)が毎年掲載されるような実績を残している。企業課題や団体から依頼されたポスターの評価も高く、デザイン業界からの信頼を得ています。本校単独の求人も増え始めています。			

点検中項目(4-5)	卒業後の動向、実績を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
------------	----------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
教職員各自が卒業生を招集した会合や懇親会で卒業生のアドバイスや意見を、授業課題などへのフィードバックを心がけています。今後は、同窓会など卒業生との意見交換できる場を今以上に増やしたいと考えています。 就職部より、卒業生の主たる就職先企業を訪問し就業状況の把握と今後の採用予定等の情報を入手し教務担任や、学生には就職情報の一つとして伝えています。			

基準5 学生支援

点検中項目(5-1)	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
------------	------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
2年次の秋と、3年次の春と秋に、個人面談を実施して進路希望の確認をしながら個々の希望、実情に沿う指導をしています。 年間3回ほど外部より講師を招聘し、就職活動のモチベーションを上げる刺激策として「就職ガイダンス」を開催し、学生に就職活動の大切さを感じ取ってもらうようにしています。 就職活動がスタートする時期には、就職希望者全員にはロールプレイング(模擬面接)を実施して、面接対策を行っています。 春休み、夏休みを中心に学生に就業体験の場として「インターンシップ」を体験させ、社会性を養っています。ここ最近では、インターンシップによる内定者が全体の20%を占めるほどになっています。このインターンシップは受け入れ企業の拡充にも力点を置いて常に企業側への案内を推進しています。 また、学生全員の就職への意識を高めるように、27年度よりインターンシップを必修科目としました。			

点検中項目(5-2)	学生相談に関する体制は整備されているか
------------	---------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
各担任を中心に学生の動向に注意を払いながら、相談の対応にあたっています。 担任など授業を担当する教員に相談しにくい事柄については、総務部に学生相談係を置き、相談全般の対応にあたっています。 ストレスケアの専門医である義村クリニックに校医を委託し、専門知識を持ったカウンセラーの講演を開催したり、教員に対してメンタルヘルスケア等の研修や相談も行っています。 また、進級時の専攻決定に際して悩む学生もいるが、担任、コース主任を中心に、学生の適正を把握しながらアドバイスを行っています。 28年度より、教務部に学生管理主任を置き、今まで以上に学生の相談に対応できるように体制を整備していきます。			

点検中項目(5-3)	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
------------	-------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
経済的支援が必要な学生に対しては、日本学生支援機構、国の教育ローンなどの公的制度を活用するほか、本校の提携教育ローンを活用してもらっています。 また、入学時には特待生制度や兄弟・姉妹入学支援制度、離島・遠隔地入学支援制度を設け、高校既卒者にはスキルアップ入学支援制度を設けています。 日本学生支援機構の奨学金については、総務・経理部が窓口となり、入学後にも説明会を実施しています。 災害時など緊急の際は、ただちに学生に周知し、公的資金を活用する。(緊急採用・応用採用) 経済的理由に学費の支弁困難者に対しては、分割制度を設けて分割納入を認めています。 在学中、保護者の不慮の事故や災害などで経済状況の急変に対して、学納金の減免などの支援体制を整えています。			

点検中項目(5-4)	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
------------	--------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学校医として福岡結核予防センター、ストレスケア義村クリニックに委託しています。学校保健法に従い、毎年4月に定期健康診断を実施しています。診断は近隣の学校医(結核予防センター)に委託し、結果は学生に配付している。学校医には健康相談等を出来る体制にあります。学生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は担当の教職員が適切な対応を行えるよう連絡、連携体制を整備しています。			

点検中項目(5-5)	課外活動に対する支援体制は整備されているか
------------	-----------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校では、サークル活動、ゼミナール、ワークショップなど、授業以外でも様々なデザイン活動を行っています。サークル活動は学校の公認のもとに設置され、教員が顧問を勤め、サークル活動費やゼミナール開催費用などは学校が予算化しています。 その他、各種デザインコンペやデザインイベントなどへの参加についても、出品料やプリントアウト費用、発送費などの補助を行っています。 また、講演会などへの参加費などについても学校が一部補助なども行っています。			

点検中項目(5-6)	学生の生活環境への支援は行われているか
------------	---------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
全学生を傷害保険に加入させており、通学中、授業時、課外活動中、インターシップ中、自宅で事故や傷害をおった場合でも保証されるようにし、就学に障害が出ないように配慮しています。 また、学生寮は専門業者が運営している指定寮が男女共複数あり、希望者が利用しています。各学生寮の運営状況等については、業者より定期的に報告があり、把握しています。何らかの問題があった場合は、業者または学生からの申し出・相談により解決に向けての対策を協議しています。 一人暮らしをしている学生については、住所近郊の地図を学生登録カードに記入させ、連絡なしの長期欠席、病欠の場合でも教員が駆けつけられる体制をとっています。 また、2015年度(H27)より学生が公的年金制度を理解できるように、日本年金機構、中福岡年金事務所による年金セミナーを開催しています。			

点検中項目(5-7)	保護者と適切に連携しているか
------------	----------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
毎年度、学校生活に慣れた6月頃の後援会総会、および秋季に保護者会を開催し、保護者との連携に努めています。 日常的な対応としては、修学状況等において必要がある場合は学級担任が保護者に電話または文書で連絡を取り、場合によっては面談を行っています。 近年、親元を離れて通学している学生に欠席が多くなった場合、保護者、学校ともに共有する情報が不足するケースが出てきています。今後は、学生だけでなく、保護者ともより綿密にコミュニケーションを図り、個人個人の状況把握に努める必要があります。 また、保護者への情報提供ツールとしてホームページやFacebook・SNS等を活用して、授業紹介、コンペ入賞などの発表、イベントの様子紹介などを行い就学状況がわかるよう随時提示しています。			

点検中項目(5-8)	卒業生への支援体制はあるか
------------	---------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
同窓会は、会長および幹事を卒業生が勤め、事務局を学内に置き、卒業生と学校との一体感を維持するためにさまざまな活動を行っています。 本校の周年記念行事時開催時の同窓会等で入学年度の隔たりを越えた交流を図っています。 本校就職部は卒業後の就転職の相談に応じたり、中途採用などの情報の提供、斡旋を行っています。 また、卒業生が附帯教育のデザイン講座を受講する際の特典などの支援体制を整備してます。 在学時の密なコミュニケーションの効果で、就職後も頻繁に本校を訪れる卒業生が多く、就職先の紹介や求人情報を提供してくれるケースも増えているので、今後も卒業生との良い関係を維持したいと思います。			

点検中項目(5-9)	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
------------	----------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
高校からの依頼によるデザイン分野の出張授業や、職業理解の為のガイダンスは積極的に引き受けています。 特に今年度より美術・デザインを志望する高校生のための実技講習会「第1回デッサン・デザインキャンプ」を海ノ中道青少年の家で開催しました。福岡県、佐賀県、熊本県の12の高校から、69名の高校生が参加があり、デッサン、パッケージ、フィギュア、インテリア・家具、照明のコースに分かれ本校の教員がそれぞれ実践授業を行いました。平成28年度には「第2回デッサン・デザインキャンプ」を120名規模で計画しています。 NPO法人・福岡デザインリーグが主催する、デザインワークショップ「スクールキャラバン」は、小学生が省エネ、リサイクル、自然環境保護などを前提に、その年の話題やテーマに添った環境作りに挑戦。社会に貢献するデザインの功績、その重要性、可能性等について考え、体験してもらいました。 これらの取り組みは、デザイン業界全体の裾野を広げる意味で重要な取り組みであると認識しており、教員と学生がボランティア活動の一環として積極的に参加しています。 出張授業、進学ガイダンス実績高校 ・太宰府高校・筑陽学園高校・クラーク記念国際高校・東筑紫学園高校・稲築志耕館高校 ・有田工業高校・波佐見高校・久留米筑水高校・大分東明高校・熊本第二高校・古賀竟成館高校 ・長崎北高校・博多青松高校・佐賀清和高校			

基準6 教育環境

点検中項目(6-1)	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
------------	----------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
施設・設備の整備、運営管理については統括を事務局長が、教育関連備品を教務部が担当し、それぞれ設備投資計画に沿って計画的な整備を行い、日常の管理にあたっています。 コンピュータ関連の設備については、教務部を中心にコンピュータ及びソフト、大型出力機、プロジェクタ、3Dプリンターなどを学校設備として充実を図っています。 2014年度より、各教室での個人用パソコン使用に対応するため配電を整備しました。			

点検中項目(6-2)	学外実習、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
------------	-------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学外学習としては、美術館でのデザイン・美術・建築関連展示会見学や、企業、工場見学などが実施されており、各専攻の授業計画において教育効果を考慮して実施しています。 海外研修は、毎年、秋期休暇に希望者を対象にヨーロッパを中心に実施しています。美術館や世界遺産などデザイン関連施設の視察や、家具工場への訪問などを行っています。 国内研修については、学生自身の自発的な活動を促すため、学生自身が計画し、実施するようにしています。 また、特任講師である城谷氏の事務所(長崎県小浜市)でのデザインキャンプなど、普段の授業では経験できないデザイン教育を学外で実施しています。 大阪芸術大学、通信教育部のデザイン学科、建築学科との併修制度により、充実した教育体制を整備しています。			

点検中項目(6-3)	教育上必要な資料は整備されているか
------------	-------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
1階ギャラリーに卒業制作やその年のコンペなどの受賞作品など最新の優秀作品を常設展示し、学生の目標となるレベルを提示しています。また、各専攻で制作されたデザイン成果物を展示し、学生の士気向上を図っています。 6階に作品保管庫を作り、参考作品を保存し、必要に応じ学生に見せるようにしています。 図書については、各階に本棚を設置し、各専攻の授業が行われる教室の近くに必要の図書を整備しています。今後とも図書の量、質を充実させていく計画です。 また、様々な素材(木材、金属、アクリル、紙など)をサンプルとして収集し、学生たちに見せるようにしています。			

基準7 学生の受入れ募集

点検中項目(7-1)	学生募集活動は、適正に行われているか
------------	--------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
募集広告において一般的な情報誌やウェブサイト広告は、必要最低限とし、無駄な経費、過度・華美な表現を控え、学生目線で必要な情報を分りやすく紹介する事に重点をおいています。 また、オープンキャンパスでは、在校生との交流時間を長く設けているが、直接、在校生の意見や経験談を聞けることが、学校選びに大変参考になっています。同時に、常設のギャラリーには近年の学生作品を展示しており、作品を通して将来の目標を確認したり、教員による個人面談、進学相談などを受けることで進路決定に役立てています。			

点検中項目(7-2)	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
------------	-----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
教育成果の正確な伝達は、各年度ごとに制作する学校案内パンフレットで発表。その他、学校行事、学生活動などはホームページにて情報を随時配信しています。 学校案内パンフレットは年1回制作、年間の教育状況とその教育成果、同時に就職内定率・内定状況を正確に掲載し、公表しています。 ホームページでは最新の学生作品、各種コンペティション等の入選・入賞の成果、商品化された作品紹介、学内外における研究発表とその成果、クラブ活動の成果、企業依頼に対する成果、ボランティア活動の成果などを迅速に正確に公表しています。 また、主な高等学校の進路指導部や美術担当教師を訪問し、最新情報と教育成果等を報告しています。その他、資料請求者に対しては、教育成果を含めてダイレクトメールにて各月の最新情報を配信しています。高等学校や個人からの質問等に対しては、各担当部署が責任を持って対応しています。			

点検中項目(7-3)	学納金は妥当なものとなっているか
------------	------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
学納金については毎年度、見直しを行い翌々年度の金額を検討し決定しています。専門学校学費データ、他府県同分野校の学費の状況等も参考にしています。以上のようなデータに過去の学費推移データなどを加味し、さらに収支状況の予想シミュレーションを実施して担当部署が立案し、協議会にて決定しています。			

基準8 財務

点検中項目(8-1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
------------	--------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
本校は、2013年度に「新学年制(3年制、4年制、1年制)」に移行しました。「新学年制」移行は、本校の教育水準を高めることが第一義的ですが、同時に本校の財務基盤を中長期に安定させる為の学生数を増やす施策でもあります。「新学年制」移行にあたり、改めて本校中長期の財務基盤見直しを進め、財務基盤改善、向上に必要な目標を設定しました。現在は、未だその途上段階ですが、2018年度より大幅に改善され、その後安定した財務基盤となる予測です。			

点検中項目(8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
------------	--------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
年度毎の予算・収支計画は、当該年度の前年度1月末に第一次予算計画として立案します。1月末になると次年度入学者数がある程度把握可能となり、合わせて進級2年生数も確定となるからです。本校収入予算は100%近く学生の学納金が入る収入の為、当該年度の学生数把握により概略収入予算が可能となります。一方当該年度の支出については、前年度の収支予算総括を踏まえ先行投資、新規事業、業務計画等を予め3ヶ年を投資計画期間とし、当該年度の重要優先支出項目より支出予算を決めています。当該年度の最終収支予算は、総務・経理部立案後、部長会、全体会議で内容説明後評議員会を経て、当該年度の定例理事会承認後正式成立となります。年度予算は、成立まで学校内全ての部門、及び学校の最高経営機関(理事会)で審議・検討される為予算として当然妥当な内容となっています。			

点検中項目(8-3)	財務について会計監査が適正に行われているか
------------	-----------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切な会計監査が、毎年度1回(5月)本校監事2名にて実施しています。監査報告書を作成し、評議員会及び理事会にて報告・承認を得ています。なお、監事のうち1名は、公認会計士・税理士であり学校法人監査・企業監査の経験が豊富で、財務監査については適正な判断・指導がなされています。			

点検中項目(8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか
------------	--------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
平成17年度より私立学校法の規定に従って、財務諸表および事業報告書、事業計画等を5月末日までに作成し、理事会の議決を得て常備しています。関係者からの閲覧請求があった場合においては即座に供する体制です。又、2014年度分(H26)よりホームページにて財務情報公開を行っています。			

基準9 法令等の遵守

点検中項目(9-1)	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
------------	-------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
法令、及び専修学校設置基準等の遵守は、学校運営上基本的な最も大切なことであり、本校では特に厳正なる遵守の下で運営がなされています。学校関係の法令は多岐にわたっていますが、基本的なことは本校「学校法人双葉学園寄附行為」及び「各種規則集」に集約されています。法令は、毎年といってもよいほど新しく施行されたり、改正されますが、学校運営上本校諸規則の改正が必要な時はただちに改訂手続きを取り、速やかに行政当局に申請を行っています。本校では、2008年度(H20)に「就業規則」、2009年度(H21)に「その他諸規則」、2010年度(H22)に「寄附行為」等を年度毎に見直し、または新規策定に着手してきました。さらに本校新規則策定が必要で、法解釈が必要な場合は、大阪の「俵法律事務所」に相談・指導をしてもらっています。			

点検中項目(9-2)	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
------------	----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校では、個人情報の保護が人格の尊厳に由来する基本的要請であることを深く認識し、「個人情報の保護に関する規則」を規定しています。この規則によって、本校が保有する個人情報の取り扱いに関する基本事項を定め、個人情報の収集、管理及び利用に関する本校の責務を明確にしています。本校では、当規則の正しい運用を図る為にも「個人情報保護委員会」を設置しており、個人情報の収集、及び利用の制限を行っています。 又、2016年1月からスタートした「マイナンバー制度」に対応して、①特定個人情報についての基本方針②特定個人情報等取扱規程等を作成、使用用途等を明記します。今後は、管理体制として管理責任者を指名し、法令等の変更に随時改定及び、事務管理を行っています。			

点検中項目(9-3)	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか
------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
2007年(H19年)学校教育法の改正により、専修学校では教育活動、学校運営上の現状把握、及び質向上の為「自己点検・自己評価」の実施・公表が義務付けられています。本校でも同件に関し実施の検討をしましたが、当時はまだそのモデルケースもなく各校の自主判断に任されていました。しかし、本校としても将来の「第3者評価」の実施を睨み、まずは「私立専門学校等評価研究機構」による「自己点検・自己評価」モデル様式を取り入れ、その評価基準に基づき本校としての「3ヶ年計画」を策定しました。以降「3ヶ年計画」の遂行過程で実質上の自己評価を行っていましたが、2012年度(H24)から正式に本校としての「自己評価」を実施し、2013年度(H25)より結果を公開しています。自己評価の過程や結果で教育活動、学校運営他の諸課題があれば、改善計画を図っています。			

基準10 社会貢献・地域貢献

点検中項目(10-1)	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
-------------	---------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
本校が取り組む「未来デザインステージ」は、在校生だけでなく一般の方々の参加もあり、地域におけるデザイン啓蒙活動を担っています。また、課外ゼミとしてフォトゼミ、タイポグラフィーゼミ、デッサンゼミを開講、一般からも受講できるようにしました。 他にデザイン団体などが開催するセミナーなどの会場として本校教室やギャラリーを提供、デザインイベントなどにコンピュータなどの機材を貸し出しています。 また、教員研修と社会貢献の双方を目的とした産学連携活動を推進しており、多くの実績を残しています。 2015年度(H27)より、「デッサン・デザインキャンプ」として高校生を対象とした実技指導を行なっています。(次年度も継続予定)			

点検中項目(10-2)	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
-------------	------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	③	2	1
学生に様々な社会貢献の経験を持たせるため、積極的なボランティア活動を奨励しており、活動内容によっては、デザイン実務の経験にもなり学生にとっても有効なものとなっています。 具体的なボランティア活動としては、クラブ活動のAFTER-5が、福岡市立こども病院のエントランス装飾を10年ほど継続して定期的に行い、病院側より感謝状を授与とされています。 また、天神地区のフリースペースでは、季節を取り入れたオリジナル立体装飾を制作、展示するボランティア活動を継続してしています。 その他、各種デザイン団体が主催するデザインイベントに学生を派遣したり、NPO福岡デザインリーグが主催するスクールキャラバンで、南当仁小学校の5年生を対象にテーマに沿った課題制作指導などに取り組んでいます。その制作過程には、学生が指導、応援をします。 評価としては、事前申請とレポート提出によって授業外活動として単位を付与するようにしています。			

点検中項目(10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
-------------	---

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
行政や企業へのコンピュータ指導やデザイン指導、講演を積極的に受託しています。 また、高校への出張授業や、中学生や高校生の職場体験などを引き受けたり、福岡強制管区で行われる、製品開発コンクールの審査員などを受託しています。			

基準11 国際交流

点検中項目(11-1)	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか
-------------	----------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
本校入学を希望する留学生に対して、独自の「留学生向け奨学金制度」を設置しています。海外在住者にはSkypeや、LINEによる事前面談を実施、日本語によるコミュニケーション能力の有無の審査に利用するとともに、受験者の初期負担軽減に努めています。 これまでの受入実績は、韓国、中国、台湾、アメリカ。卒業後は関連する4年制大学への進学や、母国や日本のデザイン関連企業へ就職をしています。 また、現在、華夏技術大学(台北市)、彰化師範大学附属工業高校(彰化市)と姉妹校提携を結び、作品や職員の交流を実施しており、作品交流や模擬授業の実施は、本校が安心して留学ができる専門学校であることの理解へ繋がっています。 本年度は、これまでに入学歴のないバングラディッシュ、ニュージーランドからも入学し就学しています。 次年度は提携が始まった武漢唐人設計学校からの留学生をはじめ、中国、韓国を中心とした留学生の入学が予定されており、さらに、イタリア、アメリカなどのデザイン系大学との留学提携を進めています。			

点検中項目(11-2)	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
-------------	----------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
留学生の受け入れは学則に基づき選考試験を実施し、可否を判断しています。 また、選考試験合格者については、学費の支弁先・預金残額・納入計画、生活費の確保・アルバイトの有無、家賃・居住環境について確認と聞き取り調査を実施し、これらについて問題無しと確認が取れた人のみ、入学を許可しています。 入学後は、住所変更・アルバイトなどの生活環境の変化や体調管理等について、留学生としての報告義務の遂行を指導しています。			

点検中項目(11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
-------------	-----------------------------------

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
入学後は、出席状況、修学態度、体調管理、学納金の支払い状況等の状況を担任、留学生担当者が管理しています。 無断欠席など修学については、初期段階で担任が直接指導し、同時に留学生担当者に状況報告を行っています。その後は両者が連携し指導を行います。 学納金の滞納については早期に原因を追及し問題解決を図ったうえ、健全な学生生活を送れるように指導しています。 学則の遵守や社会人としてのマナー、交通規則、犯罪加担の危険性等については、随時指導していますが、その結果止む終えず、除籍、退学処分等を行う場合もあります。その際は入国管理局へ、その経過を文書と口頭で報告し、相談したうえで対処しています。 また、留学生を含む、全ての学生の細かな変化も見落とさず、初期段階での問題解決の為に全教職員が学生への「声かけ」を行っています。			

適 切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
④	3	2	1
2015年2月には、韓国で日本語とデザインを学び、近い将来、日本留学を検討している韓国の高校生30名程を受け入れました。 昨年10月に続き、2015年8月には、彰化師範大学附属工業高校の校長をはじめとする先生4名と高校2年生24名が来校し、本校において5日間のデザイン関連授業を体験学習しました。この体験学習への評価は大変高く、次年度の実施も希望されていますし、福岡を拠点として、高校生に日本の学習や文化を直接体験してもらう事で両国の更なる理解を深める事になりました。 また、2016年1月には、武漢(中国)で芸術・デザイン等を学ぶ大学生12名が本校にて2日間の模擬授業を体験し、その内、1名が将来、本校への入学を希望しています。 近年、本校の卒業制作展やデザイン交流展は、アジア圏との交流の象徴として設けられた「福岡アジア美術館」において開催されており、この展覧会を通して本校がアジアの留学生の受入に積極的に取り組んでいること、安心して留学相談ができる専門学校であるとの周知が進んでいます。			

「FDS自己評価委員会」

委員長	理事長	香坂 雅弘
副委員長	理事長代理	金子 眞三
々	理事・校長	伊場 芳朗
委員	理事・ 総括事務局長	大久保 映介
々	副校長・ 教務部長	中嶋 尚孝
々	総務・経理部 部長	瀧井 信一郎
々	就職部・事業部 部長	新原 幸雄
々	業務推進部 部長	田邊 滋史
々	教務部主任	西畑 晴美
々	々	植村 明広
事務局	総務・経理部 部長	瀧井 信一郎

任期:2016年4月1日～2017年3月31日

(2017年度以降も継続することとし、毎年度毎に発令するものとする)